

## 菌床シイタケの新害虫をヤガ科ナミグルマアツバと同定

Identification of an Unknown Insect Pest of the Shiitake Mushroom, *Lentinula edodes* Cultivated on Synthetic Logs as *Anatatha lignea* of the Family Noctuidae

吉松慎一\*・仲田幸樹\*\*

Shin-ichi Yoshimatsu and Yukitatsu Nakata

**要約** 菌床シイタケの菌糸を食害するチョウ目ヤガ科幼虫の飼育羽化成虫の形態を詳しく検討し、これまで害虫としては記録のないナミグルマアツバと同定した。また、近縁なヒメナミグルマアツバとの雌成虫での識別法を開発した。

### 背景と目的

2000年愛媛県のシイタケ栽培地で、シイタケ菌床表面の菌糸を食害する見慣れないヤガ科幼虫が発見されました。本種が加害した箇所からはシイタケ子実体が発生しない。ヤガ科幼虫は未知のものが多く、幼虫では同定できなかったため、飼育して成虫標本を得ました。外部形態からは、これまで害虫としては記録のない *Anatatha* 属の1種であることまでしか同定できなかったため、関連のタイプ標本の特徴をさらに詳細に観察・調査し、種名を正確に同定することを目的とした。

### 成果の内容

得られた本種成虫の雌交尾器をロンドン自然史博物館所蔵のナミグルマアツバのタイプ標本のものと比較したところ、本種は日本・韓国・ロシア極東地区に分布するナミグルマアツバ *Anatatha lignea* (図1左上)と同定できた。日本国内に生息し、成虫斑紋が本種と酷似するヒメナミグルマアツバ *Anatatha misae* (図1右上)とは、雌交尾器のシグナム(交尾囊にある硬化片)の形状が異なり(図1下)、明瞭に識別できることが分かった。また本種の幼虫形態は中村(1989)によって既に報告されているが(図3右)、今回得られたものとは明らかに異なる別種と思われるため、改めてナミグルマアツバの幼虫形態として報告した(図2、図3左)。

本種によるシイタケへの被害は、現在までに愛媛県からのみ確認されているが、他の都道府県でも今後の発生に注意する必要がある。ただし、ほだ木シイタケへの加害は見つかっていない。食菌性はチョウ目ではまれであり、以前に報告したムラサキアツバ(*Diomea cremata*: 農業環境研究成果情報第19集)とともに、今回の *Anatatha* 属での食菌性の種の発見は、学術的にも特筆すべきものである。

---

\*農業環境インベントリーセンター, \*\*愛媛県林業技術センター

Natural Resources Inventory Center, Ehime Prefecture Forest Research Center

インベントリー, 第6号, p 8-9 (2007)

具体的データ

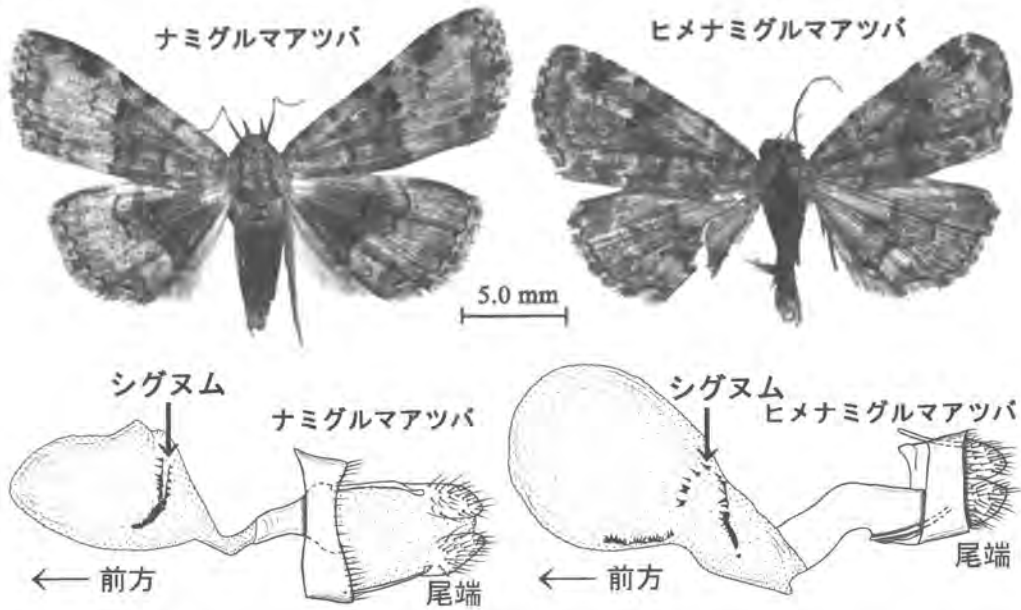


図1 ナミグルマアツバとヒメナミグルマアツバの成虫と雌交尾器  
 両種の成虫は酷似する。しかし、下に示した雌交尾器において、左図では二又の短いシグナム（交尾囊にある硬化片）だが、右図では一列の長いシグナムとなる。成虫には目盛りを付けた。

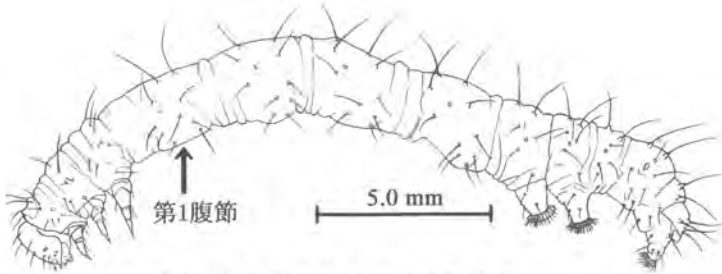


図2 ナミグルマアツバ終齢幼虫

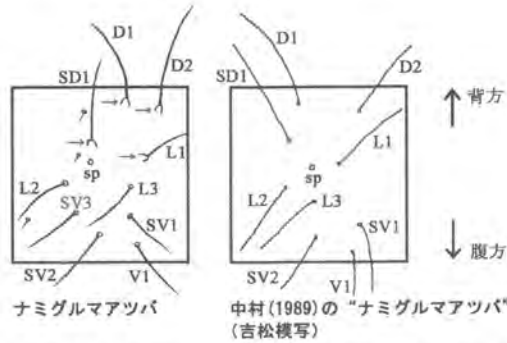


図3 ナミグルマアツバ終齢幼虫第1腹節の刺毛配列図

sp は気門、他の文字は刺毛を示す。左図ではSV3 刺毛（赤字）があり、D1, D2, SD1, L1 の各刺毛基板部が盛り上がる（赤矢印）。

参考文献

Yoshimatsu and Nakata (2006) Ent. Sci., 9: 319-325.

問い合わせ先

農業環境インベントリーセンター 吉松慎一  
 電話：029-838-8348, E-mail：yosimatu@niaes.affrc.go.jp